

⑤ 図17のように、ゴム風船から直径5 cmの円を切り取る。そのゴム片を少々張りながら、④で作ったキャップをはめる。

⑥ フィルムケースの底から、長さ40cmのビニールホースを風船のゴムを少し押し上げるところまで入れる。

○ ホースの音孔は、実験時にあけるとよい。



写真16

⑦ 写真17のように、直径6 mmのストローをフィルムケースの側面の穴に差し込み、ビニールホースに突きあたるところまで入れる。

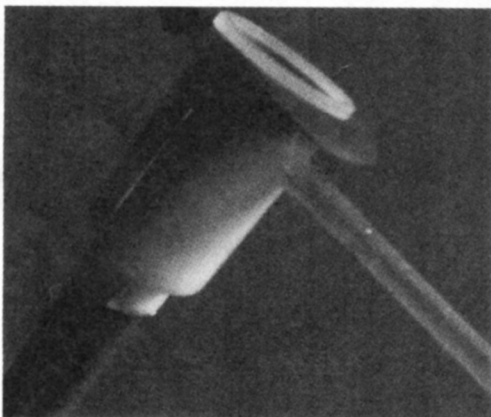


写真17

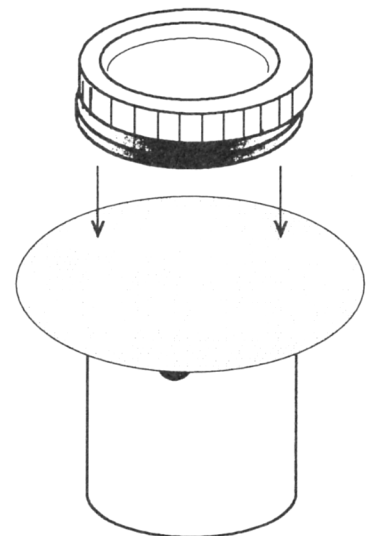


図17

3 授業での活用方法

① 音が出ているときのゴム片の様子を観察させる。

○ 食卓塩をゴム片の上にかけてみるのもよい。

② ビニールホースの長さを変えると音程がどのように変化するか観察させる。

○ ビニールホースの長さを変えてみたり、指孔を開けて音を出してみるとよい。

③ ゴム片のかわりにラップやビニールを使って音を出させる。ゴム片では、サクソフォーン、ファゴットのような音色、ラップでは、クラリネットのような音色に聞こえる。

④ 平成12年12月発行の授業に役立つ実践資料集P76にある教材「ボイスコープ」をつけて振動の様子を観察することもできる。振動の変化がはっきり観察できる。

〈引用文献〉 教育音楽1999年7月号別冊『手づくり楽器』音楽之友社

〈参考文献〉 『中学校学習指導要領』（平成10年12月） 文部省